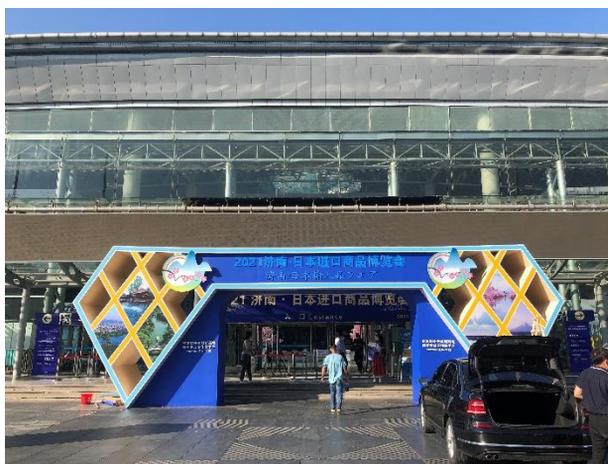


山東省「済南・日本輸入商品博覧会」

日中経済協会上海事務所大分県経済交流室

(大分県上海事務所所長) 難波 一尚

9月8日～11日、山東省済南市で「済南・日本輸入商品博覧会」が開催されました。初開催となる今回の博覧会は日本の商品に特化したもので、300以上の日系企業や自治体が出展。大分県は、住友商事、山東省の貿易商社中徳商通社と共同で出展し、物産と観光のPRを行いました。



済南市の博覧会会場

【山東省・済南市とは】

山東省は上海と北京の間に位置し黄海に面しており、日本や韓国との交流が盛んな省です。人口は1億人、面積が15万平方キロメートルで、人口も面積も日本一国とほぼ同じです。経済規模は広東省、江蘇省に次いで中国国内第3位の成長著しい地域です。

済南市はその山東省の省都（日本の県庁所在地に相当）で、省の政治・経済の中心です。また、「泉城」と呼ばれるほど湧水が多く、きれいな水が湧く泉がある公園や、水路が張り巡らされた古い町並みがあり、多くの観光客が訪れる所です。

【山東省での大分県産品輸入プロジェクト】

中国住友商事は山東省政府と協定を結び、同省の様々な事業を推進しています。昨年、日本との貿易を拡大する山東省の方針を受け、日本の地域産品を新たに輸入し中国市場に展開する事業を進めています。

まずは大分県の加工食品、酒類、水産品を先行事例として取り組むこととし、現在プロジェクトが進行しています。今回の見本市は、山東省の輸入商社である中徳商通社をパートナーとし、そのプロジェクトの一環として出展することとなりました。

※写真は上海事務所スタッフ撮影

山東省「済南・日本輸入商品博覧会」

日中経済協会上海事務所大分県経済交流室

(大分県上海事務所所長) 難波 一尚

【博覧会の様子】

会場には貿易商社などのバイヤーのほか一般客も来場し、4日間の会期中の来場者は8万6000人以上。展示即売も行われ、大変にぎわっていました。また今回が初開催ということもあり、地元メディア各社にも多く取り上げられました。

大分県ブースでは、酒類の試飲販売が行われ、多くの地元消費者が訪れました。日本酒は贈答用で買っていく人も多く、ラベルや化粧箱などの外見も重要な要素となっているように感じられました。飲みやすいリキュール類は特に若い女性を中心に人気で、銘柄によっては売り切れになるほどでした。

済南市ではこうした日本の商品に触れる機会がまだ少ないようですが、今回の売れ行きを見ると日本の商品に対する信頼感が十分にあると感じることができました。



大分県ブース



酒類販売の様子

【東アジア文化都市】

今年8月、日中韓文化省会合で2022年の「東アジア文化都市」に、日本から大分県が選定されたことが発表されました。「東アジア文化都市」は日中韓文化大臣会合での合意に基づき、文化芸術による発展を目指す3か国の都市を選定し、各都市で文化芸術イベント等を実施するものです。韓国からは慶州市、中国からは浙江省温州市と、今回の博覧会の開催地である済南市が選出されています。

来年の「東アジア文化都市」イベント開催や今回の博覧会をきっかけとして、大分県と済南市の貿易や産業面での経済交流、文化交流や旅行など様々な面での交流がますます盛んになることを期待しています。

※写真は上海事務所スタッフ撮影